

資産配分が決まったら、 どのような運用商品を選んでもよいですか？

Point あらかじめ用意された運用商品の中から選びます

■元本確保型は保険・預金から選びます。

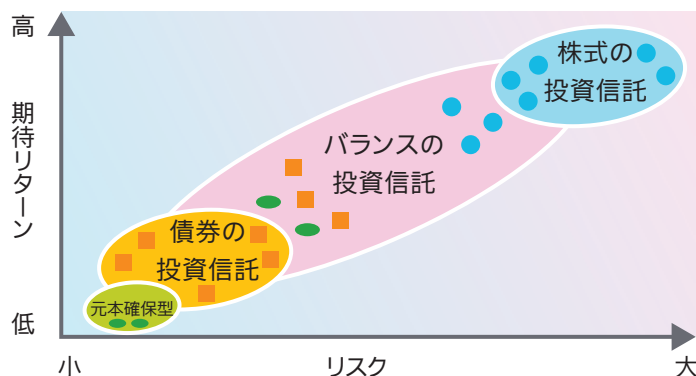
■株式・債券は投資信託から選びます。

投資信託は複数の銘柄に分けて分散投資をしています。

投資信託は大きく分けると「株式」「債券」「バランス」という種類があります。

「株式」は株式銘柄に投資し、「債券」は債券銘柄に投資します。

「バランス」は株式・債券等の銘柄を組み合わせて投資します。



- 株式の銘柄
例:「〇〇自動車」「△△電機」…
- 債券の銘柄
例:「〇△国債」「□〇社債」…

加入された制度では、株式や債券を直接購入せず、株式や債券に投資を行う投資信託を利用します。

まとめ

運用商品は、
元本確保型・投資信託から選びます。



ヒント

運用商品の「しくみと特徴」「分類」等は、第7章に記載されています。

投資信託 株式や債券などで運用する流動性のある運用商品です。高い収益が期待できる一方、資産残高が元本を下回る可能性があります。 ふやす(投資) 運用成果により損益が変動します 元本を上回った場合 元本 資産残高	元本確保型 保険や預金のように元本に一定の利息がつく運用商品です。高い収益は期待できませんが、原則、元本を下回ることがありません。ただし、インフレになれば実質的な購買力を確保できない可能性があります。 ためる(貯蓄) 元本に利息が付きま 元本 利息 資産残高	■投資対象による分類 - 国内株式 - 日本国内の株式を投資対象としています。 - 大型株・中堅株・小型株等の種類があります。 - 外国株式 - 外国の株式を投資対象としています。 - 先進国の株式・新興国(エマージング国)の株式等の種類があります。 - 国内債券 - 日本国内の債券を投資対象としています。 - 国債・地方債・社債等の種類があります。 - 外国債券 - 外国の債券を投資対象としています。 - 先進国の債券・新興国(エマージング国)の債券等の種類があります。 - 国内REIT - 国内のREIT(不動産投資信託)を投資対象としています。 - 海外REIT - 外国のREIT(不動産投資信託)を投資対象としています。 - バランス - 上記の国内外の株式・債券などを主な投資対象としています。 - 各資産のバランスを考慮組み合わせて運用しています。	■商品のしくみ 資金を一定期間保険会社や銀行等に払い込む(掛け入れ)ことで、定められた期間(保証利率適用期間、積立期間)が到来した時(満期時)に、払込時や積立時に約束された保証利率・金利で計算した利息が付きま ■積立保険 満期時に中途解約した場合、元本を下回ることがありません。その場合、保証利率が引き下げられます。運用期間中に事故によるケガで死亡した場合、病気で死亡した場合よりも戻金金額が増加します。 期待できるリターン 利息(元本×保証利率) ■生命保険 満期時に中途解約した場合、解約利益が残り、元本を下回ることがあります。解約の際、積立金や経年利益等の選択が可能です。経年利益を選択し、生命保険に充当した場合は、生命保険料等によっては戻金が増える(生命保険料)が下回ることがあります。 期待できるリターン 利息(元本×保証利率) ■預金 満期時に中途解約した場合は、適用金利が引き下げられることがあります。 期待できるリターン (元本×適用金利)
---	---	--	---

具体的な運用商品をどのように選ぶのですか？

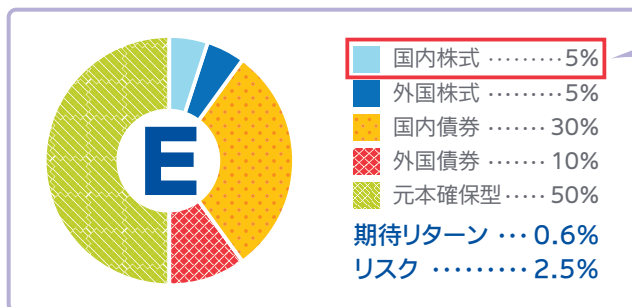
Point

運用商品の説明資料(運用商品一覧など)を
参考に選びます

選び方 I

決定した資産配分に合うように
元本確保型と投資信託を組み合わせます。

この例では、まず国内株式を投資対象とする運用商品を5%選びます。
1商品で5%でもよいですし、複数の国内株式商品を選び合計して5%でも構いません。
他の商品も同様に選びます。商品の内容は「運用商品案内」に記載されています。



<運用商品一覧>

元本確保型以外の商品（投資信託）			
運用商品名	DCファンドTOPX（日本株式）	運用商品名	DCファンドTOPX（日本株式）
運用会社	DCファンドTOPX（日本株式）	運用会社	DCファンドTOPX（日本株式）
資産配分	国内株式	資産配分	国内株式
運用方法	アクティブ	運用方法	アクティブ
特徴	上記の運用商品は、運用会社により、運用方針が異なる場合があります。運用会社により、運用方針が異なる場合があります。		
運用開始日	2014年10月1日	運用開始日	2014年10月1日
運用終了日	2014年10月1日	運用終了日	2014年10月1日
運用期間	10年	運用期間	10年
運用実績	上記の運用商品は、運用会社により、運用実績が異なる場合があります。運用会社により、運用実績が異なる場合があります。		

運用商品の特徴等については、
7.運用商品の理解をご参照ください。
※資産配分チェックシートを参考にした例です。

ページ参照 P.39～

資産ごとに
運用商品を選ぶ方法です。

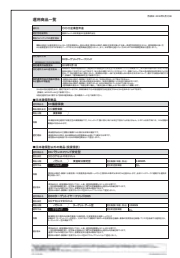
まとめ

資産配分に合うように、
ご自身で運用商品を組み合わせます。



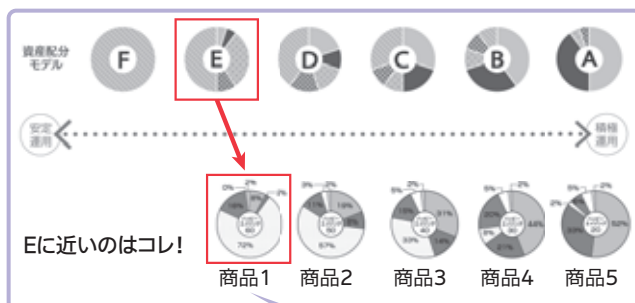
ヒント

運用商品を選ぶために、
「確定拠出年金 制度と運用商品のご案内」を
使います。
この他に運用実績の資料もあります。



選び方Ⅱ 決定した資産配分に近いバランス商品を選びます。

<バランス商品の運用商品案内> (抜粋)



例えばタイプEの場合は
資産配分が近い商品1を選びます。

運用商品の特徴等については、
7.運用商品の理解をご参照ください。
※資産配分チェックシートを参考にした例です。

ページ参照 P.39~

バランス商品の「運用商品案内」には、資産配分チェックシートの参考例にリスクが近い商品が照らし合わせできるように示されています。

<運用商品一覧>

元本確保型以外の商品（投資信託）			
運用商品名	DCバランス 商品1		
委託会社	●●アセットマネジメント		
商品分類	バランス	資産配分設定型	信託報酬(年率、税込) 0.8%
運用手法	バランス	信託財産管理費	なし
特徴	【国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。】		
運用理由	・国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。		
運用商品名	DCバランス 商品2		
委託会社	●●アセットマネジメント		
商品分類	バランス	資産配分設定型	信託報酬(年率、税込) 0.7%
運用手法	バランス	信託財産管理費	なし
特徴	【国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。】		
運用理由	・国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。		
運用商品名	DCバランス 商品3		
委託会社	●●アセットマネジメント		
商品分類	バランス	資産配分設定型	信託報酬(年率、税込) 0.8%
運用手法	バランス	信託財産管理費	なし
特徴	【国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。】		
運用理由	・国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。		
運用商品名	DCバランス 商品4		
委託会社	●●アセットマネジメント		
商品分類	バランス	資産配分設定型	信託報酬(年率、税込) 0.8%
運用手法	バランス	信託財産管理費	なし
特徴	【国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。】		
運用理由	・国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。国内の株式・債券に投資し、外貨資産を約10%程度含みます。		

あらかじめ配分された
運用商品を選ぶ方法ですね。

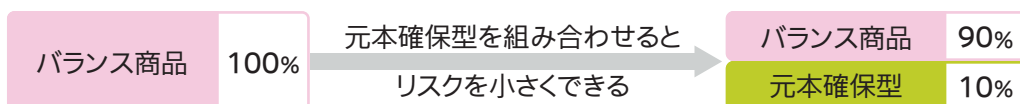
まとめ

資産配分に合うように、
バランス商品を選択します。

チェック

バランス商品はあらかじめ資産配分が決まっている商品です。リスク・リターン調整をするためには他の運用商品と組み合わせます。例えば、ご自身で元本確保型を組み合わせると、リスクを小さくすることができます。ただし、リターンへの影響も考慮する必要があります。

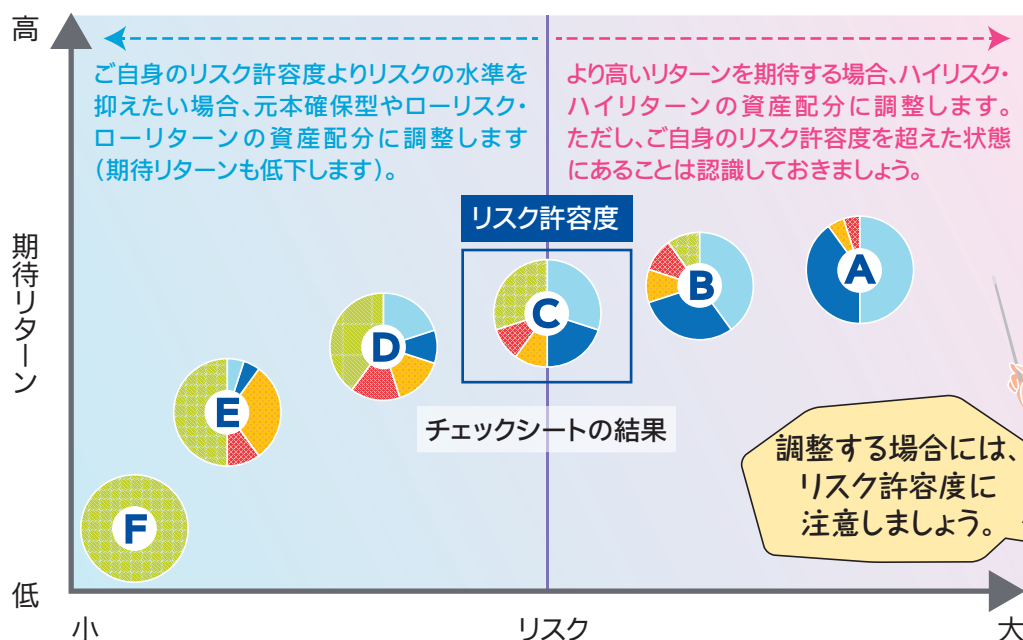
<組み合わせの例>



資産配分はチェックシートの結果どおりに しなくてははいませんか？

Point 必ずしもチェックシートどおりにする必要はありません

リスク許容度に注意しながら資産配分を調整します。



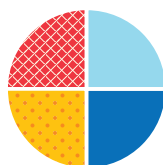
※上記は一例です。実際の資産配分はご自身の責任において決定してください。

まとめ

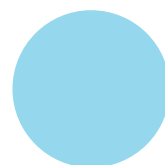
必要に応じて他の参考例のリスクと期待リターンを参照しながら、資産配分を調整し、運用商品を選択します。

✓ チェック

資産配分チェックシートの参考例に必ずしもこだわる必要はありません。ご自身でDC制度以外の資産などを考慮して資産配分割合を決める方法もあります。



例えば…
25%ずつに資産を振り分けて投資



例えば…
100%同じ資産に投資

運用商品一覧には、 バランス商品に分類があるようですが？

Point

バランス商品は資産配分の変更の仕方によって、さらに分類されます

バランス商品の分類	資産配分の変更
資産配分固定型	変更なし 資産配分は一定に保たれる
ターゲット・デート型	時間の経過により変更 退職を迎える日をターゲット・デートと想定し、積極運用から安定運用へ徐々に資産配分が変更される
リスク・コントロール型	運用環境により変更 リスクの大きさを一定以下に保つように資産配分が変更される

加入された制度にはない分類もあります。

選び方のヒントは、
P.43～44を
ご参照ください。



まとめ

ご自身に適した運用商品を選びましょう。



ヒント

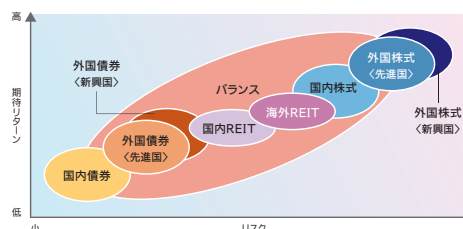
国内REIT、海外REITが運用商品一覧にある場合

REITを入れることにより、さらに分散効果が期待できます。

REITは不動産投資信託が投資対象です。株式と同じように比較的风险が大きいと考え、運用商品を選ぶことができます。

ページ参照 P.47～48

〈投資対象別のリスク・リターンのイメージ〉



運用商品を選んだ後、 どのような手続きが必要ですか？

Point

選ぶ運用商品とその購入割合を所定の方法で
指定します。これを「配分割合指定」と言います

選んだ運用商品を下記のいずれかの方法により指定します。

配分割合指定の方法

◎アンサーネット (加入者向けWebサービス)

- 毎日24時間
(システムメンテナンス日は除く)



◎アンサーセンター (加入者向けコールセンター)

営業時間はこちらの二次元コードから
ご確認ください。



指定した配分割合は変更手続きを行わない限り、今後の掛金に適用されます。
変更はいつでも可能です。

必ず
指定しましょう。

まとめ

配分割合指定は、
いずれかの方法で指定します。



チェック

次回抛出日の前日までに受け付けた
内容が反映されます。

(例) 抛出日が25日の場合



※抛出日の翌営業日に運用商品の購入指示が行われます。